

留学生ホットライン ニュースレター

代表からの挨拶

一昨年来、日本では東日本大震災、米国では東海岸のハリケーンと自然の猛威は世界中を駆け巡っているようですが、今年は何とか何事もなく平穏無事にこの一年を過ごす事が出来るよう祈るばかりです。

さて留学生ホットラインでは、長年の課題となっていました知名度がまだまだと云う件で、当団体の広報員が主になり皆で案を練り、まず全米に点在する大使館及び領事館に我々の存在と活動を知っていただこうと書類をお送りさせて頂きました。そして昨今では、大半の学生や若い人達はコンピューターを持っていますので、インターネットで当団体を紹介していただいたりしましたところ、かなりの反響があり、ニューヨークやシアトル等遠隔地からも、領事館から教えてもらった、インターネットを見た、という学生さんから通常以上にお電話いただくようになりました。最近では日本を出る前に知っていればもっと安心して留学して来られたのに…という声も上がっているためこちらの件も現在検討中です。このような事で留学生の皆さんにもっともっと当団体を利用して頂き、安心して学業を続ける事が出来るよう私たちも試行錯誤を重ねながらも頑張っていきたいと思っています。

留学生ホットラインの資金源活動としましては、恒例になりましたお正月の南加日系商工会議所主催のお正月in リトル東京にお汁粉ブースを出しました。2012年は異常気象でお正月とはいえ夏日のように暑くなってしまい、とても温かいお汁粉をいただくという雰囲気ではなくなってしまい、私たちも頑張ったのですが残念ながらあまり功を成しませんでした。しかし“失敗は成功の元”こういった経験を基に、2013年、今年のお正月はあまり季節感の無いものをという事で、お汁粉に加え綿菓子も出してみました。今年のお正月はこの外寒かった事、物珍しい綿菓子と云う事も有り頑張ったかいがあったと思います。

私たちもお互いの知恵を出し合い試行錯誤しながら、どのようにして当団体を維持し且つ、一人でも多くの留学生の方々のお役に立つ事が出来るかと日々努力を重ね、歩みは遅くとも一步一步堅実に一致団結して邁進していきたいと思えます。

昨年もたくさんの皆様のご協力、ご援助をいただきまして本当に有り難うございました。ボランティア同心より感謝申し上げます。皆様から、たくさんのご支援のパワーを頂き今年も今まで以上に頑張っていきたいと思えます。今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

留学生ホットライン 代表 和田容生子

留学生ホットライン ニュースレター 21号 目次

代表からの挨拶	1
コーディネーターからの挨拶.....	2
顧問からのメッセージ.....	2
御礼とお願い.....	3
ドナーリスト.....	3
新人ボランティアからのひとこと.....	4-5
ボランティアトレーニング.....	5
ボランティアインタビュー.....	6
2012年度会計報告.....	7
2012年度 インテイク統計報告.....	7

Facebook, Twitter
Ryugakusei Hotline
で検索できます



ホームページ
リニューアルしました
ryugakusei.ltsc.org

ボランティア・コーディネーターからの挨拶

国際を舞台に活躍する人材を育成するには、留学には計りしれない意義があると言われてしています。その意義を認識して志を胸に、アメリカの地へ渡って来た日本人留学生達。現実の留學生活の中で、志とは別のところで抱えてしまう彼等・彼女等の問題の解決や軽減に向けて、少しでもサポートをできたらと、リスナーとしてのボランティア活動に日々精進する、留学生ホットラインのボランティア員達。その双方“留学生とボランティア員”の間を結ぶお手伝い、ボランティア員達が活動しやすいように環境を作る、そしてまた、ボランティア活動の魅力を伝える、これらが私達、ボランティア・コーディネーターの役割だと認識しています。私もコーディネーター自身、まだまだ学ぶ事の多い毎日、益々気の引き締まる思いです。新任のまちこを加え、これからも留学生達がホットラインを利用し易い環境、ボランティア員達が活動を十分にできる環境を作る努力を一層していきたいと思ひます。

コーディネーター Machiko、ひろみ、Rumiko

顧問からのメッセージ

インフルエンザ体験記

つい最近、ものごころついて以来初めての経験をしました。インフルエンザ、いわゆるフルに罹ったのです。毎年、オレンジ郡日系協会ではフルショット（予防注射）の無料サービスを主にオレンジ郡在住の日本人と日系人を対象に行っており、大変な好評を得ていて、私もここ数年その恩恵を得てフルには罹った事が無かったので、ところが今年はずっとフルショットの当日に所用があって行けなくなり、気にはなっていたのですが、その後東部での大流行の為にワクチン不足と成り、とうとうチャンスを失いました。そして見事にインフルエンザの餌食になりました。

私の場合の症状を言いますと、頭痛、発熱、下痢、咳等普通の風邪とあまり変わらないのですが、熱が9度(華氏102度)を超え、何も食べていないのに激しい下痢が続き、飲んだ水が30分くらいで全部後ろから出てしまうという何とも不思議な初体験をこの年になってする事になったのです。ちょうど家内が日本からこちらに来ていて直ぐにドクターのアポをとり、タミフルの処方箋をもらい、一気に回復に向かい事なきを得ました。若し一人の時であったなら果たして順調に回復出来たかどうか大いに疑問です。9度の熱というのは二十歳前の子供のとき以来で、平熱が低い年配者にとっては相当な高熱で自分で冷静にアポをとって運転して医者に行けたかどうか、電話はともかく運転はまず不可能です。うまく知恵が働いて、救急車を呼ぶのが恐らくは一人暮らしの高齢者にとってベストそして唯一の解決策であったと今になって思っている次第です。

留学生の皆さんでも風邪、インフルエンザその他の病気になる事は、若いとはいえある程度避けられない事態でしょう。そんな時にも留学生ホットラインが役に立つ事が出来れば素晴らしいです。緊急事態の時の為にも携帯電話にホットラインの番号をインプットしておきましょう。

顧問 安部新二

留学生ホットライン 2012年-2013年の活動

2012年

- 1月1日 お正月 in リトル東京
おしるこ出店
- 4月 ニュースレター20号発行
- 6月23日～8月10日
ボランティアトレーニング
(6月23日～7月14日 講習
7月23日～8月10日 実習)
- 8月18日 ボランティア修了式
- 9月15日 法律関係ワークショップ
講師：ロッキー森氏

2013年

- 1月1日 お正月 in リトル東京
おしるこ+わたし出店



- 4月上旬 ニュースレター発行(予定)
- 9月 ボランティアトレーニング(予定)

御礼とお願い

昨年、初めての試みとしてこのニュースレターでご寄付を募らせていただいたところ
たくさんの御寄付を個人、団体から頂きました。

ボランティア一同、感謝に絶えません。

皆様からの貴重な御寄付は、留学生達のために大切に使用させていただきます。

このように留学生達に対するホットラインの必要性を感じて下さった方々がいらっしゃるという事実は、
私達ボランティアを何よりも勇気付けてくれます。

近年、留学生の数は減少し、インターネット等を利用した相談方法も増えており、電話の件数は減って
いますが、簡単には解決できない複雑な問題や心の悩みなど、電話で直接話を聞いて欲しいというニーズがあ
る限り、活動を続けて行きたいと思っております。

貴方がもしも留学生ホットラインの活動を必要だと思っておられるならば、是非、ご寄付やボランティア活
動によって留学生をサポートして下さることをお願いいたします。

ご寄付については、同封の返信用封筒で Ryugakusei Hotline 宛のチェックを郵送して下さいますよう
お願い致します。

皆様のご支援、何卒よろしくお願い致します。

ボランティア一同

2012 年度ドナーリスト

(敬称略)

Allen, Machiko
 Cude, Mitsuko
 Isono, Masayo
 Kass, Katsuko & Michael
 Kimura, Hiroko
 Russell, M. Keiko & Oshiro, C-M. Alice
 Shinkai, Hideko
 Tanaka, Shinichi
 Tamura, Yoshikuni
 Toshie M. Mosher
 ◆
 Nichibei Fujinkai
 ◆
 Alpha-net Consulting Group, Inc.
 Taki Law Offices
 Vivid Navigation, Inc.
 ◆
 Consulate General of Japan, Los Angeles

また、次の個人・企業の方々にも、
貴重なご協力をいただきました。

KINOKUNI BAKERY
 共同貿易 株式会社
 宇佐美千尋 瀧恵之
 中村義人 ロン長谷川
 ロッキー森
 中山ゆくひろ 奥山奈々
 鹿沼碧 曾根悠每

皆様のご支援、ご
 協力に、ボランテ
 ィア一同、心より
 感謝申し上げます

新人ボランティアから ひとこと

RHLへ週一度通うことが日常となってきた今日この頃。研修後、半年を過ぎててもまだまだ電話が鳴るとギクリと緊張が走ります。研修時に心がけるよう教わった“傾聴のこころ”。特に私のようにアメリカでの留学や就職の経験がない者には、電話をくださる方々の質問や悩みにひたすら心を傾け、理解することからが始まりです。

研修で学んだことに加え、さらに知識を蓄える努力も自分なりにやっていくことができればと思っています。近年、日本人学生の内向き傾向や、年々早まる新卒生の就職活動などで留学生が減っているとのこと。またインターネットでの検索、相談サイトも数多くあり、外国で暮らしている私たちにはとても助かることが多いのですが、がんばっている皆さんへ《生の声での応援》には揺るぎないものがあると信じて、活動していきたいと思います。



(M*A)

ボランティアになるにはどうしたらいいのですかと、思いきって問い合わせの電話を入れてからもう1年。トレーニング、研修、リスナー業務開始、と何とかやってこられたのは、頼りになる先輩リスナーさんたちと、同期の心強いメンバーさんたちのサポートのおかげです。日頃、留学生と接する機会があり、何か役に立てるかも、と想っていたのですが、実際には、電話の向こうの留学生の方たちのやる気やがんばりに、こちらがエネルギーをもらうことも。

電話を受けるたび、人と人がコミュニケーションすることの大切さとパワーを感じ、自分も変わってきたような気がしてします。留学生ホットラインの存在を、もっと多くの留学生に知ってもらい、活用してもらえれば、と願っています。



(HS)

昨年五月、留学生ホットラインのボランティア募集記事を目にして、アメリカに来てからの自分の生活を思い起こしました。ビザの問題、担当者次第で対応の違うお役所仕事、なかなかスムーズに進まない日常生活。思いもよらない壁にぶつかり日本では当たり前だった普通の暮らしがこんなに難しいなんて！と落ち込むこともしばしば。そんな中で、周りの方に色々な形で助けていただいていたことに、改めて感謝の思いでいっぱいになりました。お世話になった方々に直接お返しすることは難しいので、今度は私がどなたかのお役に立てればと、ボランティアに応募しました。興味深い研修を受け、毎週電話の前に座るようになって早や半年以上。素敵な先輩や同期の方々に会って刺激を受けています。まだまだ勉強不足ですが、どこかに私のように戸惑ったり悩んだりしている人がいたら、その気持ちを分かち合うことができればいいな、と思っています。(A.S.)



大学4年生になった頃、卒業するまでに必要な単位があまりないことに気づき、余っている時間を有効に使いたく思い、留学生ホットラインのボランティアに参加することを決意しました。私も留学生としてすでにアメリカに4年間ほどいたので、この経験を活せるだろうと思っていました。しかし、毎週のトレーニングを受け始め、知らなかったことばかりで、私にできるのかすごく不安になりました。そしてトレーニングを終えて初めて実際に電話相談を受けました。幸い、トレーニングで学習したことのある内容だったので、緊張して頭が真っ白になってしまい、うまく答えられませんでした。でもコーラーさんが何度も「ありがとうございます」と明るい声で言ってくださり、すごく嬉しくて、このボランティアに参加して良かったなと強く思えました。私は現在、大学、そしてボランティアからも卒業して日本に帰国したのですが、このボランティアで得た「傾聴」の姿勢を忘れず生活していこうと思っています。短い間でしたが、素晴らしい体験をさせてくれた留学生ホットラインに心から感謝しています。ありがとうございました。



(Y.M.)

私が留学生の為にボランティアに参加させていただこうと思った昨年は、時間に余裕がありまして、気持ち的にも少しは何かどこかでお役に立てることをしないと、と考えた時期でした。昔から、知り合いのお子さんがアメリカで留学、あるいは遊学をする時に、いろいろな形で関わりをもってきました。彼らが楽しいときには一緒に遊んでもらって、問題のあるときには解決策を探して走り回りもしました。その人たちが今それぞれの場所でごんばっているのを時折知らされますと、彼らの人生に少しでも関わらせていただいたと嬉しくなります。今、日本の若い人たちが居心地の良い日本からあまり出たがらないようですが、地球上の若い人たちと肩を並べていくには、日本以外での経験を持つことが必要だと思います。…と志は高かったのですが、最近私の個人的な都合であまりお手伝いさせていただいておりません。今後はもう少しお役にたつようにつとめますので、今後ともよろしく願いもうしあげます。(Shigeko)



ボランティア トレーニング

2012年6～7月にかけて、新人ボランティア研修を日系ヘルプラインと合同で行いました。初日には、LA領事館から北田副領事にお越し頂き、在米日本人として認識しておくべき事などを、丁寧にお話して頂きました。2日目以降は、留学生からの相談で最も多いビザについて弁護士の瀧先生に、異文化理解はMFTの中村先生に、精神衛生はMFTの宇佐美先生に、DVについてはLC SWの坂本さんに、犯罪、交通関係については元LAPDのロン長谷川さんに、それぞれ専門的分野から講義して頂きました。どの講義も大変勉強になり、悩みを抱える留学生の為に役立てたいと思いました。

そして、最終的には、5人の優秀な人材が研修を終了し、現在、留学生ホットラインの柱となって、頑張ってくれています。新人さんの存在は、私たちに新たな風を吹き込んでくれ、大いに刺激を受けております。スタッフ一同、更にパワーアップして頑張ります！

最後になりましたが、無償で講義を引き受けて下さった講師の皆様には、心より感謝致します。ありがとうございました。

2012年度 ボランティアトレーニング 担当 Rumiko

2013年の
トレーニングは、
9月頃 開始の
予定です。

参加を
ご希望の方は、
留学生ホットライ
ンのTELまで
お気軽に
お問い合わせ
ください。



ボランティア インタビュー

今号から始まったこのコーナーでは、活動中のボランティア員に、お話を伺っていきたいと思います。

まず、登場していただいたのは、今年で留学生ホットライン歴 18 年めになる、K.N.さん。留学生からの電話に、いつも穏やかな口調で、落ち着いた対応をされるKさんは、陰に日向にと、留学生ホットラインを支えてくださっています。



—Kさんが留学生ホットラインのボランティアを始めた頃のことを聞かせてください。

私がボランティアに参加したのは、1995年の春。電話相談に関心がありましたので、羅府新報に載っていたお知らせを見て、応募しました。当時は、日系ヘルプラインと留学生ホットライン合同のトレーニングでした。ボランティアとなって、最初はJACCC（日米文化会館）で電話を受けていました。それからL T S C（リトル東京サービスセンターに移ったのですが、はじめの頃は一緒のお部屋にいましたので、坂本安子さんはじめ、日系ヘルプラインの方たちとも、大変親しいおつきあいがありました。

—それにしても、18年もボランティアを続けられるというのは、なかなかできないことだと思います。

18年といっても、何度か家族のことで脱けていた時期がありましたので、実際は15年か16年かもしれないですよ。長いこと休んでいると、Tさん*に「そろそろどうですか」と電話をもらったり、「次のトレーニングを受けて下さい」と言われたりしますし、他の方たちも温かくて。良くも悪くも、留学生ホットラインは“ゆるい”のでしょうね。でも、だから、休んでも復帰しやすかったのだと思います。

**Tさん わが留学生ホットラインの大ベテランボランティア員

—ボランティアをなさっていて、いちばん嬉しく思うこと、大変なことは？

それはもう、電話の最後に、「話を聞いてもらって良かった」「お話できて良かった」と言ってもらえたときは嬉しいです。大変なことは…ないですよ。ボランティアを始めたばかりの頃は、月に100本以上も電話があって、インテイクシートを書くのが大変、ということはありません。

—以前と比べて、近頃の留学生が変わったな、と思うことはありますか？

あまり変わっていないですね。同じです。今はネットがありますので、昔は人から、電話でしか知り得なかった情報も簡単に手に入ります。ですから、ビザのことにしても、自分でもう知っている情報を、人から大丈夫です、と聞いて安心して、太鼓判を押してほしくて、電話してくる学生は増えたかもしれませんね。昔は、もっと根掘り葉掘り聞かれて、簡単には引き下がってくれませんでしたから。でも、やはり人と人とのコミュニケーションですから、根本は変わらないと思いますよ。

—大先輩のKさんから、私たち後輩リスナーへのアドバイスをお願いします。

電話に答えるときは、それぞれの人生経験に裏付けられたコメントを、私たちより人生経験の短い学生さんにお答えする、と考えられたらいいと思います。

ビザのことを聞かれたとしても、質問のコアだけを答えるのではなく、その他の部分、その他の意味を含めて答える。おしゃべり、お節介、と思われても、その「他の部分」が、質問をした方の、後に役立つのだと思います。たとえば、隣人とどうつきあうか。コミュニケーションするか。本人も知らない、親も言わないことですよね。それを、私たちが自分の経験から答える。

留学生ホットラインには、人数が多いときも少ないときもありましたが、本当にいろいろな方がボランティアでいらっやいます。みんな、それぞれ違うバックグラウンドと人生経験をお持ちです。そういう、いろいろなことを話せる人が来ている、ということ。それが留学生ホットラインの、何よりの財産だと思います。

インタビュー後記

まだまだ余裕をもって電話に答えることもままならない新人ですが、いただいたアドバイスが心に染みわたるようでした。経験を重ね、少しでもKさんの境地に近づけるようになりたいものです。

初期の頃のお話も興味深く、次から次へとお話を聞きたくなくなりました。

留学生ホットラインが積み重ねてきたものを、

次の世代に引き継いでいけるようにしたいとあらためて感じます。(H.S.)

2012年度 会計報告

2012年度 総収入	4,407.37 USD
2012年度 総支出	6,011.84
2012年度末 収支	-1604.47

総収入	USD	総支出	USD
お正月 in リトル東京	751.75	(A)オフィスレント費用小計	4,057.94
団体、個人ドナーション	3,630.00	オフィスレント	3,600.00
銀行利子&アジャストメント	25.62	会計手数料	457.94
		(B)オフィス備品費用小計	1,197.47
		オフィスサプライ	733.91
		カード類、広告用紙、その他	463.56
		(C)イベント費用小計	496.43
		お正月 in リトル東京出店	397.21
		トレーニング講習	99.22
		(D)その他費用小計	260.00
		広告費	260.00
	4,407.37	(A)+(B)+©+(D) 合計	6,011.84

2012年度 インテイク統計報告

- 2012年度・年間コール総数は181件。
月平均コール数は約15件でした。

- 性別ごとの集計では、男性29%(53件)、女性70%(127件)で、女性からの相談が大幅に上回っています。

- 月別集計では、5月(23件・以下カッコ内は件数)が最もコール数が多く、4月(21)、3月(18)、と続きます。逆にコール数が少ないのは、最少が8月(10)、ついで9月(11)、12月(12)でした。

- 曜日集計では、金曜日(42)が最も多く、火曜日(41) 水曜日(38)、月曜日(32)と続き、最少は木曜日(28)となっています。

- 相談内容では、ビザ関連の質問が最も多く41%(95)、ついで学校関連の問題14%(33)、交通問題9%(33)、健康関連6%(13)、ハウジング関連4%(10)、犯罪関連2%(4)、生活全般15%(35)となっています。(右グラフ参照)。また、その他の内容も9%(20)あり、これまでのカテゴリーにあてはまらないものも増えるなど、相談内容は多様化する傾向です。

